



土岐市教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内373)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
No. 568  
発行責任者 所長 河合 広映  
発行日 令和5年3月15日  
題字 山田 恭正 教育長



## 『季節を感じる贈り物』

学校運営協議会の

皆さんより

撮影 泉西小学校

平林 尚子 先生

## 卒業式とは

土岐市教育研究所長 河合 広映

3月は、学校行事の中でも1年間を通して最も盛大かつ厳かに執り行う儀式的行事、卒業式があります。1872年に学制施行にともなって、修了者に対して学年ごとに証書を授与したことが始まりだといわれています。卒業式が始まって150年余の間に卒業式の形や内容はいろいろと様変わりをしてきました。しかし、卒業式の目的だけは現在にまで貫かれ、小学校や中学校の最も大きな節目の行事となっています。中学校学習指導要領「特別活動編」では、儀式的行事は「学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機づけとなるようにすること。」とあり、ねらいとして「生徒の学校生活に一つの転機を与え、生徒が相互に祝い合い励まし合って喜びを共にし、決意も新たに新しい生活への希望や意欲をもてるような動機付けを行い、学校、社会、国家などへの所属感を深めるとともに、厳かな機会を通して集団の場における規律、気品のある態度を育てる。」とあります。これを読むと、学校長式辞、卒業証書授与、国歌・校歌斉唱、送辞・答辞をなぜ行うのか、その理由が見えてくるような気がします。

忘れられない卒業式の生徒の姿があります。Y君の話です。卒業式後、涙・涙の最後の学級活動を終え、多くの生徒が教室から去っていく中、数人の生徒が乱れた机や椅子を整えるのを手伝ってくれていました。Y君もその中にいました。教室も整い、残っていた生徒の一人が去り、二人目が去っていく中、Y君はなかなか教室から立ち去ろうと

はしません。ついに、Y君ただ一人になりました。「さあ、行こうか。」と声をかけた時、彼は教室から一步廊下へ出て振り返り、今までいた教室に向かって「ありがとうございました。」と言って、深々と一礼をしたのです。最後まで教室に残っていたのは、この姿を誰にも見られなくなかったのかなと思いつつも、普段ならこんな姿は見せなかった彼が、教室を去るその瞬間にとったこの行動は、今でも私の心の中に印象強く残っています。まさに、この行為が彼自身の「転機」だったのではないかと思います。

3月7日(火)土岐市内の中学校で卒業式が挙行されました。濃南中学校では、18人の生徒が学び舎を巣立っていきました。かつて経験したことがない休校期間明けから始まった中学校生活。その3年間に思いを馳せながら答辞を読み上げる前田さんと酒井君の姿に感動を覚えました。彼らの言葉の中に「濃南中学校の新時代」という言葉が出てきました。まさに、ここからが、学校にとってもコロナで停滞していた生活からの幕開けであり、彼らにとっても新時代の始まりだと共感させられました。式後、濃南小・中学校だからこそその「小学校時代の映像」が流されました。小学校1年生の入学式から濃南小学校での生活などなど。まだ幼かった自分や仲間の映像を見ながら18人の顔が緊張からふっと笑顔に変わり、ともに歩んできた仲間との学校生活を見つめる優しい眼差しに思わず涙が出そうになりました。



## 管理職になりたくない日本人



土岐津中学校長  
塚本 修

ひたすら我慢をすることが多いと感じながら、管理職となっておよそ10年になります。ふと振り返ってみると「組織の一体感が作れず、成果も上がらずプレッシャーが…」「発生した事案や職員への対応に、疲れている自分が…」「管理職になって、本当によかったのだろうか…」そんな思いが頭をよぎることがあります。そんな私の心の声が態度に出ているせいなのか、一緒に勤務した職員からは「管理職には絶対になりたくない…」といった声を聞くこともありました。



パーソル総合研究所の調査では、アジア太平洋地域14か国の中で、日本は管理職志望者の割合が最下位となっているそうです。調査対象国の企業を含めた一般社員の中で「管理職になりたい」と思っている人の割合は、ほとんどの国で5割を超えています。インド、ベトナム、フィリピンでは8割以上です。これに対し、日本は約2割という結果となっています。この背景には、「お金をバリバリ稼ぎたくない」という仕事観の変化や、「偉そうにしたい」「責任を負いたくない」「競争したくない」という価値観の変化があるのでしょう。

本質的に人間は、成長したい…その成長の中で幸せを感じたい…と考える生き物のはずなのに、この状況は不思議です。そこには、一種の「あきらめ」や「無能感」があるのではないかと思えてしまいます。現状を見ると、職員の価値観や働き方の多様化への対応、働き方改革推進による職員の長時間労働の是正、様々な事案に対するマネジメントへの不安等が、管理職自身の「無能感」を高め、成長への「あきらめ」を作り出してしまっているのでしょう。

管理職の仕事は、職員を含めたより多くの人との繋がりの中で自分の仕事の重要性を実感し、より大きな仕事ができる「働きがい」のある仕事です。この管理職としての「働きがい」を実感するためには、「3つの心の壁」を越えていくことが必要だと考えています。

1つ目の壁は、「自分の心の壁」です。管理職の仕事を進めていく上で、自分の行動やモチベーション

を阻む思いを越えていくことです。「管理職にならないければよかった」とか、「他の職員に仕事を任せられない」といった思いは、管理職の「働きがい」実感を低下させます。

2つ目の壁は、「多様な職員の心の壁」です。職員の心の中を読み解き、建設的に対応することが求められるということです。「最近の若者は主体性がない」「自分とは違う人間はよくわからない」といった思いの中では、職員へのマネジメントは難しさを増し、管理職の無能感やあきらめ感を増やしてしまいます。

3つ目の壁は、「組織の心の壁」です。組織を生き物と捉え、そこに流れる感情を読み解き、「職員同士の仲が悪い」「会議が盛り上がらない」といったことの裏にある、ネガティブ感情の解消に取り組んでいくということです。

これらの壁を越えられれば、自分の存在価値や成長を更に感じるできるようになっていきます。そして、ゆるぎないリーダーの心が醸成され、管理職自身が元気になります。職員とのゆるぎない信頼関係をつくることもでき、組織自体も元気になっていきます。そして、組織内の関係の質が高まることで、より高い成果が生み出され、仕事のやりがいや働きがいがい更に広がっていきます。

最後に管理職としてこの3つの壁を乗り越えていくために、私が日常から心がけている3つのポイントを紹介します。

1つ目は、定期的なピットイン(内省)の時間を持つことです。日々の忙しさに流されては、働きがいを感じることはできません。

2つ目は、日頃から心の声に意識を傾けることです。日々の違和感や疑問を大切にすると、そこに人と組織に働きがいを育むヒントが隠されています。

3つ目は、職員の自己有用感を満たす関わりを意識することです。それは、自身の自己有用感も満たしていくことにつながります。

管理職の仕事は、間違いなく「やりがい」のある仕事です。



## 令和4年度 【土岐市教育実践論文】 入賞者

NO	賞	園・学校名	教科・領域	氏名	論文テーマ
一般の部	優秀賞	泉中	社会	橋本 壮平	社会の形成者として主体的に社会参画する生徒の育成 —第3学年 社会「地方自治」の指導を通して—
	優良賞	肥田中	国語	伊野 沙由美	自らの学びを自覚し、実感する国語科の授業づくり ～対話的な活動を取り入れた学習活動の工夫を通して～
	優良賞	泉小	国語	三輪 めぐみ	自分の考えを筋道立てて表現できる子を目指して
	優良賞	泉西幼稚園	管理経営	古川 直利 栗木 美紀代 林 博美 土本 早苗	幼保小の架け橋期の指導について
新人の部	新人賞	肥田小	社会	山田 康弘	よりよい社会の実現を目指し、社会への関わり方を選択・判断できる子が育つ社会科学習 ～児童と社会をつなぐ地域教材の活用に重点を置いた授業改善～
	新人賞	肥田小	その他	吉田 翔夢	小学校中学年でのキャリア教育のあり方 ～ICT機器を使った自主学習の実践を通して～
	入選	駄知中	特別活動	山田 陸生	自己肯定感を高め合うことで生徒が安心できる学級経営の在り方
	入選	妻木小	社会	瀬戸口 貴光	社会的事象を自分事として考える子を育む社会科学習
	入選	泉中	国語	塚原 能文	生徒が主役になるためのICTを活用した国語科の授業2

## 令和4年度 【土岐市教育実践記録】 入賞者

賞	園・学校名	氏名	作品(記録名)
教育長賞	駄知小学校	加藤 恵	お昼の放送 わたしたちの ふるさとを知る「駄知ふるさとかるた」のコーナー
特別賞	泉西幼稚園	西尾 香穂	ことば遊びは子どもの世界を広げる
特別賞	肥田小学校	青木 典子	外国語活動・外国語 ワークシート(3～6年)

# 令和4年度 教育実践論文審査講評

審査委員長 土岐市立肥田小学校長 中村 光代

土岐市の小・中学校教育方針「『やってみたい』を引き出し、『できた』『わかった』と実感できる授業の実現」をふまえ、子供たちが未来社会を切り開くための資質・能力の育成を目指して積み重ねた実践と成果を論文にまとめてくださいました皆様に心から敬意を表します。

今年度の論文から学び、土岐市の教育がより一層充実することを願い、成果と課題を記します。

## 1 応募状況

出品総数は、小学校12点、中学校9点、幼稚園1点の合計22点でした。内訳は、一般の部対象が11点、新人の部対象が11点でした。教科・領域別では、教科14点、各領域8点となっています。子供を学習の主体者にするための授業改善が多く実践されたことがわかりました。

## 2 教育実践論文にみられたよさや成果

### (1) 学びの自覚を促し主体的な学びをつくり出す

学びの自覚を促す実践が多くありました。単元の出口で願う児童生徒像に向けて、一単位時間の中で児童生徒に自覚させたい学びを明確にした振り返りの場を設定する。また、自覚した学びが活かされる単元構想を工夫することで、学ぶ意義や喜びを自覚させ主体的に学ぶ姿をつくりだそうとしていました。

### (2) I C T機器利用の効果を有効な手段として活用している

今年度もI C T機器を活用する実践が多くありました。中でも、教師が育てたい資質・能力を明確にもち、児童生徒の実態把握を早く簡単に行うことや子供の主体的な学びを生み出すための手段として活用している実践など、I C T機器利用の効果を有効な手段の一つとして活用できている実践が多くなってきました。

### (3) 実践の有効性が伝わりやすい工夫がされている

子供の実態に基づいた教師の手立てとその後の変容が述べられていることで、実践の有効性が伝わってきました。特に、図や表を活用して児童生徒の意識調査やノート等の記録を端的に示す工夫がされていました。

### (4) 幼稚園からの応募

幼稚園からの応募が昨年度に引き続きありました。「幼保小の架け橋期の指導」をテーマにした先行的な実践であり、学校教育関係者にも参考となるものでした。規定により東教推教育実践研究への応募は行いませんが、市の優良賞としました。

## 3 今後の課題

- ・育てたい児童生徒像やつけたい資質・能力をより具体的にもつことができると、焦点化された実践となり、また、検証もしやすくなります。継続的な課題をもち、その中で今年度の実践を焦点化して取り組んでいる方もみえます。
- ・入賞された実践には、外部講師を有効に活用している実践がいくつかありました。with コロナの学校生活は続きますが、地域の資源をはじめ、様々な機関と連携した学びが構築されることを期待しています。

## 令和4年度 土岐市「実践記録」審査講評

土岐市教育研究所 主任 安藤 律子

土岐市の実践記録は、平成29年度から始まり、今年度で6年目となりました。

実践記録の募集は、土岐市立の幼稚園、小学校、中学校教職員の日々の取組を  
実践記録にまとめることを通して、実践的指導力の向上を図ることと、応募いただ  
いた実践記録を閲覧することで、市内の先生方の識見を広げ、日々の実践に役立てて  
いただくことを目的としています。今年度も、閲覧の機会を計画することができませ  
んでしたが、参考にさせていただきたい実践がたくさんありました。



### 1 応募の状況について

「A:通信等」「B:教科プリント、児童生徒ノート等」「C:とき丸活用」「D:ICT活用」と「E:それ以外」  
の計5部門で募集をしました。幼稚園の先生や小中学校の先生方から、あわせて9点の応募をいただき  
ました。

### 2 内容や結果について

実践は、児童生徒や教職員への熱い思いが伝わってくるものばかりでした。子どもや教職員に向けた  
通信、教材を活用した実践、園・学校の教育課題の解決に向けた取り組みをまとめられた作品などをご  
応募いただきました。ロイロノートを活用した委員会新聞もありました。

今年度、最高賞である「教育長賞」には、駄知小学校の加藤恵先生、「特別賞」には、泉西幼稚園の  
西尾香穂先生、肥田小学校の青木典子先生の3名の作品が選ばれました。

加藤先生は、駄知小が5年前に作成した「駄知ふるさとかるた」を活用した取組をまとめられました。  
昼の放送に「駄知ふるさとかるたコーナー」を位置付け、放送委員の児童とともに、かるたの紹介を進め  
たご実践でした。ふるさと駄知を愛する子どもたちになってほしいという熱意を感じました。学校の財産を  
さらに発展させた取組でした。

西尾先生は、日々の園児の姿を、「言葉」というキーワードを切り口に見つめ、友だちとの関わりを通し  
た園児の育ちを丁寧に見取る取組をされました。コロナ禍で関わりが少ない中でも、年間を通した意図  
的・計画的な支援を工夫され、園児の1年間の成長が見えるご実践でした。

青木先生は、3・4年生の外国語活動、5・6年生の外国語のワークシート等を毎時間作成されました。  
ロイロノートによるワークシートの他に、授業で使用する提示資料、パフォーマンステスト、授業の進め方  
など、英語が専門ではない先生方でも授業づくりに活用できるようにまとめられていました。

### 3 今後に向けて

日々の実践をまとめることで、取組の成果と課題を確かめながら、次の実践に生かしてみえることが分  
かりました。地道な取組により、一つ一つの活動が意図的・計画的なものになっていくと感じました。そし  
て、目の前にいる子どもたちに力を付けるために取り組まれたものばかりでした。教育に対する情熱をも  
ち、挑戦し続ける先生方がみえることに、大変心強く感じました。心から感謝申し上げます。来年度も、実  
践を継続していただくとともに、幼・小・中、幅広い年齢層の先生方からの応募を期待しております。あり  
がとうございました。

## 【学力向上推進委員会の取組から】

# 令和4年度 妻木小学校の実践報告

学力向上企画委員 妻木小学校 樋口 絵璃奈

妻木小学校では、西陵中学校区の課題指定発表における算数科での実践を各教科に生かし、土岐市スタンダード授業の重点である、以下の2点を意識した授業づくりを行っている。

### 1 「やってみよう」を生み出す具体的な課題

本校では、本時付きたい力や終末に目指す姿を明確にし、児童にとって必然性のある課題となるよう実践をしている。「やってみよう＝主体的に学ぶ姿」を生み出すために、各教科の特性を生かしながら、課題化へつなげられるよう心掛けている。

**算数科**：1年生「3つのかずのけいさん」  
文章の表現に注目しながら問題を把握し、本時との違いから課題につなげた。

「5ひきのっています。2ひきおりました。4ひきのりました。」

前は「おりました」が2回だったけれど、今日は「おりました」「のりました」になっているよ。

↓

今日は、たし算とひき算の両方が入っているね。

**国語科**：3年生「まいごのかぎ」  
これまでの場面における出来事や、主人公の心情が分かる叙述を振り返りながら、本時の課題につなげた。

4場面の終末 「りいこはよけいなことばかりしてしまおうので、悲しくなりました。」という叙述に注目。

↓

「りいこはどんな気持ちなのかな。文章の言葉から見つけていきたいな。」という児童の意識から、次時5場面の課題化につなげた。

### 2 「できた」「わかった」を実感する終末の振り返り

児童自身が、自己の学びを実感でき、かつ定着状況を見届けるために、各教科の特性を生かしながら、終末の在り方を考えている。

**算数科**：本時学んだ考え方が定着しているか、説明の仕方をiPadで録画し、ブロック操作を含め、本時学んだことが、自分でできているか、振り返ることができるようにした。



【写真1】説明の仕方を自分で録画している様子

**社会科**：5年生「わたしたちの生活と工業生産」  
キーワードをもとに本時のまとめを記述できているかを見届けた。また、自分が学んだことや授業を通した考えの変容を振り返りとして記述できるようにした。

【実際の児童の記述より】

『今日の学習で、これからの日本の工業生産で大切だと思うことを考えました。初めは、生活を支える製品づくりが大切なのではないかと思っていました。でも、仲間と意見を言い合って、環境なども大切だと分かりました。(以下略)』

### 3 今後の実践に向けて

今年度は、具体的な課題設定と終末の振り返りの位置付けを各教科に広げ、「主体的に学ぶ姿」「自己の学びを実感できる姿」を追究してきた。今年度の実践を生かし、児童自身が願いや目標もてる授業を実践していきたい。



# ICTによる学習データの活用

土岐市教育委員会  
学びのICT支援室 早瀬 浩孝

第5回ICT教育推進委員連絡会において、岐阜大学教育学部准教授の福岡大輔先生を研修講師に招き、研修した内容について紹介します。福岡先生によると、岐阜県が取り入れているGIFUウェブラーニングを利用し、客観的な学習状況を把握した実践が県内で行われていることを教えていただきました。

ICTの活用により、状況を瞬時に視覚的に把握することができます。GIFUウェブラーニングの学習データの活用を視点に取り入れた小学校算数の学習事例を、一般的な授業と比較して紹介します。

## 一般的によく見られる小学校算数の学習事例

### 授業 教科書の流れに沿って計画

- 課題提示
- 例題
  - ・教師の机間指導や児童の発言等で、全員で解き方の確認をする ①
- 練習問題
  - ・個々に問題に取り組む。
  - 教師による板書、机間指導や教え合いにより、全員ができることを目指す。 ②

### ○まとめ

### 家庭学習

- 計算ドリル
  - ・保護者による見届け。間違いがあれば正しい答えに直し○をつける。
  - ・教師による見届け。ほぼ全て正解のノートを見る。 ③

### 単元の終末

- 単元テスト
  - ・授業や家庭学習ではできていたのに、点数にばらつきが見られる。 ④

### ☞教師が児童の学習状況を把握できる場面

- ☞①教師の説明や児童の発言により、その場では大方理解している感覚になる。
  - ☞②机間指導や教え合うことで、その場ではできているため、教師は児童が大方理解している感覚になる。
  - ☞③○のついたノートを見ているため、教師はみんなが理解している感覚になる。
  - ☞④ ①～③の時点とは異なる結果を感じる。
- △ 感覚的な捉えであり、学習状況を客観的に把握できる場面は思ったより少ない。

## GIFUウェブラーニングを活用した小学校算数の学習事例

### 単元の導入

- ウェブラーニングでレディネステスト ①
- 授業 レディネステストの結果をもとに計画  
授業の流れは、一般的な授業の流れと同様。

- 授業の終末 ウェブラーニング ②  
教師は全員の正答率をリアルタイムで把握。  
児童は自分の正答率を把握

### 家庭学習

- ウェブラーニング ③  
・児童は正答率の低かった問題に取り組む。  
県の正答率と比較し、自分自身で目標をもって取り組める。

### 翌日以降

- ・教師は定着度の低い傾向の問題についての確認や確かめ問題の作成をする。

### 単元の終末

- ウェブラーニング ④

### その後

- ・経年データの蓄積、一人ひとりの実態の把握、学級の理解度の分布を把握し、学級の実態に合わせた授業改善に取り組める。

### ☞教師が児童の学習状況を把握できる場面

- ☞①～④のすべての場面で、教師がリアルタイムに取組状況、正答率の把握ができる。岐阜県内の正答率との比較により、児童が自分自身の実態把握ができる。
- 教師は客観的な学習データを基に授業改善プランを考えることができる。
- 児童は自分自身を分析し目標を立てて取り組むことができる。

これまでは、理想として目指してもなかなか実現できなかったことが、ICTの活用により実現できることがあります。学習データが活用しやすくなった現状における授業改善が県内ですすんでいます。



# 「どこまでも深く『想像』して動くこと」

泉中学校 教頭 遠山 唯史

「本人のエネルギーが溜まるまで、焦らず、じっくりいきましょう。」

不登校の生徒の保護者にこの言葉をよく使っていた。担任していた当時の学級には、喫煙や飲酒、カッとなってすぐに手足が出る元気な生徒もいれば、保健室や別室登校、家からなかなか出られない生徒も何人かいた。生徒指導の対応をしながら、週に一度家庭訪問。そんな日々を過ごしていた。

そんなある日、一人の相談員の先生が自分の娘の話をされ始めた。

「まじめでどんなことも一生懸命に取り組む娘。高校では何でも必死に頑張っていたけれど、1年の夏休みに急に部屋にこもり、一切口を閉ざしてしまった。親として何とか解決してあげたいとものがくが、何もできず、ただただ時間が過ぎるだけ。学校の先生は、『本人のエネルギーが溜まるまで、焦らず、じっくりいきましょう。』一週間に数回の

電話連絡。『明日は、頑張って学校に行く。』と約束する娘。でも、翌日、約束したのに登校できない自分を責める。学校近くまで車で送る。近づくと涙が止まらない。親として何がダメだったのかと自分を責める。祖母は、『そんな甘やかしてどうする！社会に出ればもっと厳しい！』と私を責める。家庭内はいつも殺伐として、ご飯ものどを通らない。一人になると、涙が溢れ出る。この仕事をしていて、不登校の保護者の方には『本人のエネルギーが溜まるまで、焦らず、じっくりいきましょう。』と言ってきたが、そんな簡単なものじゃない。生徒、保護者の気持ちを深く深く想像した『じっくりいきましょう』なのか、決まり文句としてなのかは、全く違うと思うよ。先生はどっちかな？」

私は、答えることができなかった。



## 掲 示 板

### ◆令和4年度 岐阜県ふるさと教育表彰

《優 秀 賞》 泉 中 学 校：ふるさと学習の一環として美濃焼の茶碗制作に取り組む。

### ◆令和4年度 東濃地区学校図書館教育賞

《優 秀 賞》 下石小学校、妻木小学校、泉小学校 《奨 励 賞》 西陵中学校

### ◆令和4年度「ひびきあい活動」表彰

《ひびきあい賞》 土岐津小学校、妻木小学校、肥田中学校、妻木幼稚園

### ◆令和4年度 科学作品展・発明くふう展 全国展入賞

#### 【科学作品展】

第59回全国児童才能開発コンテスト科学部門

全国連合小学校長会会長賞

土岐津小学校 1年 宮地 亮輔さん

第66回日本学生科学賞

文部科学大臣賞 土岐津中学校 3年 岩本 汰朗さん

#### 【発明くふう展】

第81回全日本学生児童発明くふう展

発明協会会長賞 西陵中学校 3年 柳生 泰杜さん



おめでとうございます

### 【寄贈書 紹介】

不登校支援に関わる本の寄贈がありました。関心がある方は研究所にお問い合わせください。



大久保俊輝 著  
『わが子が「学校に行きたくない」と言ったら』

### 編集後記

目を輝かす子供たち。素敵な贈り物でした。(P1) 研究所長の巻頭言・「校長室の窓から」、教育に対する見方・考え方を広げます。自己有用感・自己肯定感、子供たち同様にも私達も。(P1.2) 実践論文・実践記録の入賞の成果を園や学校に上げられることを願います。(P3-5) 各校の学力向上の成果と課題を来年につなげ、より充実した研究実践を目指したいです。(P7) 教員として持っている「心にひびく言葉」、毎号、読み手の皆さんの心に刺さることと思います。(P8) 本号が今年度最終号です。(感謝)

